

# 礼文の森から

宗谷森林管理署  
礼文森林事務所

## 今年もよろしくお祈いします!!

皆様、いかがお過ごしでしょうか？  
本州の関東で育った私は、寒さと早起きが苦手です。窓越しにお天道様を見遣り、大雪が降らないよう願う毎日です。  
4月に平成が終わり、干支も最後の亥年ですが、猪突猛進にならぬよう注意しつつ、全力で職務に励みたいと思います。  
今年も引き続き国有林野行政へのご理解とご協力のほど、よろしくお祈いいたします。

(礼文森林官 土居拓務)



真冬の造林地 (平成31年1月16日 撮影)

## 礼文島国有林の立木蓄積量(m<sup>3</sup>)

礼文森林事務所は、地況・林況調査を通じて、国有林の立木蓄積量(m<sup>3</sup>)を把握しています。現在の推定蓄積量は約364000m<sup>3</sup>(うち人工林蓄積約34500m<sup>3</sup>)です。仮に全ての立木を木材にして一般的な木造住宅※1を建築すると、約15167戸にもなると考えられます。



北海道森林の年間の蓄積量増加率(%)は平均1.28%※2でした。これを礼文島に当てはめると年間約4659m<sup>3</sup>(うち人工林約441m<sup>3</sup>)の蓄積量増加が推定できます。同じく木造住宅の戸数で表すと約194戸にもなります。



※1 一般的な木造住宅：在来工法(木造軸組工法)120㎡の木造住宅(木材使用量約24㎡/戸)を仮定。(財団法人日本住宅・木材技術センター(2002)木造軸組工法住宅の木材使用量)  
※2 北海道ホームページ(北海道林業統計(年度別))から平成22~29年度の蓄積増加率を計算し幾何平均して算出。

## ◀昭和61年~平成3年の新聞記事等から読むレブンアツモリソウ保護・増殖の歴史▶



前号(No.136)のつづき。

前号に続き“レブンアツモリソウの保護・増殖”の歴史を当事の新聞記事から辿ってみました。

昭和57年に僅か2000株と報告されたレブンアツモリソウは、昭和61年に4000株にまで数を増やします。しかし、希少性が明らかになったため、レブンアツモリソウの取引価格は高騰し、盗掘が相次いだそうです。礼文町はさらなる保護のため昭和62年2月に北海道へ天然記念物の指定を要請します。(結果、平成6年6月3日にレブンアツモリソウ群生地が“珍奇又は絶滅に瀕した植物の自生地”として指定されます。)

昭和62年6月には前年の2倍(8000株)にまで数が増えたと喜び一方、同月7日夜から11日早朝にかけてレブンアツモリソウ群生地内で約200株の盗掘が発見されます。「盗掘は夜間に行われる」と考えられ徹夜の監視体制や照明灯等の施設が整備されたのも同じ年です。

昭和63年5月にはレブンアツモリソウ群生地の有刺鉄線を木柵にする工事が行われます。  
平成元年の“持っている花を山に返そう運動”のほか、平成2年には24時間の監視体制が徹底される等、保護に対する意識が高揚します。平成2年10月に人工授粉の有効性が示され、平成3年6月に群生地内での人工授粉成功が報告されます。さらに同年10月に培養センターによる人工培養の成果が報告されて以降、レブンアツモリソウが記事に取り上げられる機会は少なくなりました。